療法名 S−1+CDDP+Tmab

適応　胃癌

抗癌剤適応分類　HER2過剰発現が確認された進行・再発癌

第2版	2025年1月
登録番号	胃−4
登録年月日	2013年8月

投与順	抗癌剤名（一般名）	【略語】	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	**トラスツヅマブBS** （トラスツズマブ）	T−mab	初回 8mg/kg 2回目以降6mg/kg	点滴静注	初回90分 2回目以降30分	d1
2	**シスプラチン** （シスプラチン）	CDDP	60mg/㎡	点滴静注	2時間	d1
3	**エスワンタイホウ®** （テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム ）	S−1	80mg/m^2※1	経口	朝・夕食後	d1～14

	day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21										
T−mab	初回8mg/kg 2回目以降6mg/kg	↓																														
CDDP	60mg/㎡	↓																														
S−1	80mg/m^2※1	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓																	

1コース期間 （次のコースまでの標準期間）	3週
総コース数	原則PDまで
コース間での休薬規定	次コースは前コースd22以降

減量規定・中止基準	チェックリスト参照
投与量の増量規定	なし
投与間隔の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	T−mab→CDDP→S−1(HER+CDDP投与日夕食後から開始)
プレメディケーション	CDDP投与日：デキサメタゾン注9.9mg、パロノセトロン注0.75mg点滴静注、ホスアプレピタント注150mg点滴静注
ポストメディケーション	①CDDP投与日：腎毒性軽減のため2000mL～4000mLの水分負荷投与と硫酸マグネシウム1A投与、尿量確保のためフロセミド注1A投与 ②CDDP投与2、3日目：1000mL以上の水分負荷投与　±デキサメタゾン錠8mg内服

主な副作用とその対策	チェックリスト参照
患者条件	HER2過剰発現（IHC3+またはFISH陽性陽性）、その他チェックリスト参照
除外規定	チェックリスト参照
実施上の注意点	患者状態により、T−mab単独投与も考慮する

治療成績	HERBIS−1試験(フェーズⅡ)より奏功率67.9%、病勢制御率94.3%
その他	※1 S−1は体表面積に合わせて初回投与量を調節する 1.25㎡未満→80mg/日　1.25㎡～1.5㎡未満→100mg/日　1.5㎡以上→120mg/日 投与2回目以降は減量規定に合わせて投与量を調節する

参考文献　中外製薬　ハーセプチン適正使用ガイド
金原出版　制吐剤適正使用ガイドライン　第1版